

重点取組分野	令和 4 年度		総括	重点取組分野	令和 5 年度		総括	重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
個に応じた指導	①2つのアセスメントツールを適切に活用し、新学習指導要領に基づく個別の指導計画を作成し、授業内容、指導方法、教材等の改善を行う。②自立活動部と各学部が連携し、自立活動6区分27項目の指導内容・方法の事例研究および授業改善を実施する。③個別学習を定着させ指導と評価の一体化を目指す。	①情報交換や情報共有を頻回に行い、指導内容や指導方法をお互いにブラッシュアップすることができた。②自立活動部と担任の情報交換や支援内容の共有をし、児童生徒の生活の質の向上を目指せるよう取り組んでいる。③指導と評価の一体化はほとんど教員が意識して行った。	A	個に応じた指導	b1			個に応じた指導	c1		
人権教育	①ICT機器、言葉、表情、動作等、一人一人が自分らしいコミュニケーション手段を使い、自分の思いや願いを安心して表出できるようにする。②体験的活動や交流を通して地域や人とつながる機会を増やす。③道徳、道徳科の授業のあり方について研究を推進する。	①児童生徒の表出を引き出す支援ができた。今後も工夫を継続する。②コロナ禍の影響が大きく、直接的に繋がる機会を増やすのは難しかったが、様々な機会とのつながりや機会を設けた。③日々の学校生活や授業展開で道徳を意識するようになった。	B	人権教育	b2			人権教育	c2		
健康教育・食教育	①感染症等についての関心をもち、健康への意識を高める。②自分の身体の使い方や、選び方を自立活動の学習や日常生活に取り入れ、自らの健康を意識できるように授業改善に取り組む。③給食を通して食の大切さについて考え、食べことへの関心を高める活動を増やす。	①感染症対策や感染症予防の啓発、情報提供、環境衛生などに取り組んだ。②自らの健康を意識できるように授業改善に取り組んだ。③食に興味関心を持って、経営栄養など安心して受けられるように取り組んだ。	A	健康教育・食教育	b3			健康教育・食教育	c3		
キャリア教育	①キャリア教育の視点から資質・能力の育成を意識した授業改善に取り組む。②キャリアノートを作成者や関係者とも連携しより充実したものにしていく。③全学年で卒業後の進路について共有し、系統的、計画的な進路指導を行う。④卒業後の姿を具体的に描けるように保護者、教員の研修会を充実させる。	①キャリア教育の視点から資質・能力の育成を意識した授業改善に取り組んだ。②キャリアノートの作成や活用に取り組んでいる。③進路先の情報共有や卒業後に見通した指導・支援を定期的・実施。④新しい研修のやり方では進路先や障害福祉サービス動画視聴などの充実させた。	B	キャリア教育	b4			キャリア教育	c4		
いじめへの対応	①全教職員がいじめ防止への理解を高め人権感覚を育てるための研修会を実施する。②体罰や不適切な指導、ハラスメント防止のために、児童生徒や教職員との面談を随時実施する。③児童生徒の人権が尊重されているか学校評価アンケート等による点検を行う。	①情報保障委員会を中心に研修をおこない「行動が変容した」と感じている教員が増えた。②児童生徒と話をしたり、様子を見たりと教員同士の相談も頻回に行った。③いじめアンケートに基づいて児童生徒や保護者への聞き取りが行われた。いじめ対応が遅れた事案もあったが適切に対応できた。	B	いじめへの対応	b5			いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	①主幹会、学部連携会議を充実させ、教職員が抱える課題を早期発見できるように教・連・相の体制を整える。②積極的に校内外の研修に参加できる体制を構築する。③働き方改革の4つの指標の達成を目指す。④情報保障委員会を立ち上げ誰もが働きやすい職場環境を構築する。	①課題の軽減・解決に繋がるように取り組み、教・連・相の体制が整ってきている。②校外での研修に積極的に参加できるようになってきた。③4つの指標が少しずつ浸透している。④誰もが働きやすい職場環境を構築できた。が、常に、何ができるかを考えていくことが大切である。	B	人材育成・組織運営(働き方)	b6			人材育成・組織運営(働き方)	c6		
GIGAスクール構想	①上菅田GIGAスクール構想に基づく、タブレット端末等、ICT機器、クラウドを活用した教育活動を充実する。②学びをためるためのオンライン活用を推進する。③教員不自由校における遠隔授業の研究を推進する。	①ICT機器、クラウドを活用した教育内容を充実することができた。②リモート学習やローノートでの教材の提供などオンラインの活用ができた。③他校との調査が難しく遠隔授業は推進できなかった。一方で、オンライン授業だけでなく、オリアー交流授業、遠隔企業実習等を実施した。	A	GIGAスクール構想	b7			GIGAスクール構想	c7		
センター的機能の取組	①特別支援教育コーディネーター、児童生徒指導係を中心に校内外の支援・相談機能を充実させる。②コロナ禍にあるが関係諸機関、学生などの研修を受け入れ、共生社会における本校の役割について積極的に発信する。	①校内での情報交換や情報共有、校外での関係機関との連携などチーム支援で取り組めた。②市の初任者研修や介護体験実習、卒論研究の学生などを受け入れた。センター的機能で特別支援教育COが地域の小学校や看護学校に研修の提供をしたりなど障害理解や啓発に積極的に取り組んだ。	A	センター的機能の取組	b8			センター的機能の取組	c8		
地域学校協働本部	①学校運営協議会委員による学校運営への参加及び協力のために学校からの情報発信を積極的に行う。②地域社会とつながるよう、行事への協力や授業への参加等を積極的に呼びかける。	①学校運営協議会がオープンスクールを見学等を通して、学校評価報告を共有し意見交換ができた。地域とポツチャでの交流を実施した。②感染対策を行い、かみすげえマーケットを地域と交流する機会にしたり、オンラインを活用して学校間交流をしたり地域社会とのつながりを広げたい。	B	地域学校協働本部	b9			地域学校協働本部	c9		
					b10				c10		
学校関係者評価	コロナ禍でこの3年間できなかった地域とのつながりを復活させたいという意気込みは大きく評価できる。特に、上菅田中、上菅田の丘小、地域と合同のポツチャ交流会が実施できると、児童生徒の自己有用感の向上につながるのではないかと、センター的機能も充実し始めていると感じた。また、療育センターをはじめとした幼児期とのつながりを強化するには、それを促す啓発活動が大切になっていて学校からの発信を取り組むようにしてほしい。学校に来るたびに元気で学習に取り組んでいる児童生徒で充実していることが伝わってきている。			学校関係者評価				学校関係者評価			
評価結果に対する学校の見解	学校評価について、令和4年度から形式を改善した。目標の達成度を数値化することにより、実現できている部分と、さらなる課題について分析をすることができた。主幹教諭が学校評価の総括を分担して行い結果の分析から次への課題へのつながるようにシステムを構築できた。組織力の高まりを感じるとともに、中期学校経営目標、具体的取組について教職員が共通言語として、それぞれの教育活動につなげている。次年度は、コロナ禍で中止になった地域との交流を直し、本校がプラットフォームとなる活動を増やしていく。			評価結果に対する学校の見解				評価結果に対する学校の見解			
中期取組目標振り返り	豊かで確かな学びの充実に取り組んできた。4つの類型による学習を定着することで、自分らしさを発揮し、文らしい表現する力が身に付いてきている。いろいろな機会を生かし、児童生徒に社会参加させることで、自己肯定感の高まりがあった。特に、全校展開しているキャリア・ノート(キャリアパスポート)については、自分らしさを発揮させるものであり、発信するものであり、更なる発展をさせていく。アセスメント・ツールを用いた個に応じた指導は、全教員が共通理解することで指導力、授業力の向上を目指していきたい。			中期取組目標振り返り				中期取組目標振り返り			